

## 国際道德経論壇International Forum on the Daodejingに参加して (平木康平教授退職記念号)

著者	大形 徹
引用	人文学論集. 26, 2008, p.(163)-(168)
URL	<a href="http://doi.org/10.24729/00004472">http://doi.org/10.24729/00004472</a>

# 国際道徳経論壇 International Forum on the Daodejing に参加して

## 大 形 徹

国際道徳経論壇は『老子道徳経』に関するインターナショナルなフォーラムである。主催は中華宗教文化交流協会と中国道教協会である。参加者は中国から450余名、海外からは56名、うち日本からは熊本県立大学の山田俊教授と私の2名であった。大会は二〇〇七年四月二十二日から四月二十八日の一週間にわたって開かれた。前半の二十二日から二十四日までは西安、そのあと二十五日は香港に移動、二十六日、二十七日は香港という変則プログラムである。司会、発表、コメンテーターなど、あげられている名前だけで百二十名をこえている。発表は三つの部門（1《道徳経》与和諧文化、2《道徳経》与生態環保和現代管理、3《道徳経》与養生健康）に分けられている。

二十二日は午前中に兵馬俑・八仙宮の参観があり、夕方より、オープニング・セレモニーがあった。これは香港と同時開催だとのことである。野外の特設ステージで行われたが、政治家などのスピーチばかりでなく、歌や劇、それに空中をワイヤーアクションで浮遊するなどのアトラクションまであり、花火の音がすさまじかった。

二十三日は研究発表の日であった。私は《道徳経》与養生健康部門で発表した。原稿はあらかじめ論文（中国語3000文字以内）として二月に送付していたが、それがすでに『国際道徳経論壇論文集 和諧世界 以道相通』上・中・下（宗教文化出版社、総頁1367頁）として印刷されていた。会場にいる人たちは論文の内容を見ながら話を聴いた。すべての発表を聴くことは不可能だが、以下、印象に残ったものをあげる。熊鉄基氏（上海華中師範大学）の「從《老子》到《道徳経》」は、漢代以降の老子の注釈者は、注釈という体裁を借りて自分の意見を述べようとしている、としており、興味深かった。なるほど古典の注釈はたんに本文の解説ではない。現在、自らの思想を託した解説書を書くことは、とんでもないことであるが、もし、そのような書物をあらわせば、後世、研究対象になるのかもしれないと思うと、すこし、おかしかった。鄭志明氏（台湾、輔仁大学）の「《道徳経》“善”的養生与医療法」は、『道徳経』の善に着目した鋭い論考で、老子は実践道徳として実行に移すことができるかもしれない、と感じた。あと宗教的な立場からの発言として、道士の李至旺氏（新加坡道徳協

会会長)の発表「道通天地—和諧世界、以道相通」が精彩を放っていた。電腦の動画を駆使して、世界中の悲惨な戦争やテロ、洪水・地震などの自然災害などの写真をちりばめ、それらを無くすために『道德經』の「不爭之德」という言葉が有効であるという話はきわめて説得力があり、聴衆は聞き入っていた。宗教者として尊敬できる人物である。「《道德經》与管理」、「《道德經》与柔性管理」、「《道德經》与現代管理」と管理に関する論考も多かった。

私自身の発表は午後の前半に割り当てられ、8名の発表のうち、3番目であった。時間はわずか8分である。発表内容は「《老子》裡的“精”与“房中術”—关于広成子・大成・容成」(発表原稿は簡体字)。発表直後は、隣席の発表者である趙啓光氏(アメリカ、カールトン大学)に「你講的很好」と声をかけられ、安心していただけだったが、8名の発表後、評議人の王卡氏(中国社会科学院)から、手厳しく批判された。まず表題の老子と房中術に関しては「老子和房中術完全没有關係」と否定され、内容に関しても「猜(推測)」で書いている、あるいは後世の資料にもとづいて論証しようとしているのはおかしい(そんなふうには書いていないはずなのだが…)と批判された。また広成子・大成・容成などに共通してみえる名前の「成」に関しても、よくある名前でも全く関係がないと批判された。とにかく全否定である。

そもそも、今回の会議は中国道教協会が主催しているものであるが、香港の経済界の李兆基氏が資金援助していたらしい。李兆基氏は、2007年度のフォーブスの世界の長者番付で22位(資産170億ドル)の人物で、1997年度は世界第4位であった。この論文の裏表紙には「此書出版承蒙香港李兆基先生資助 謹致謝忱!」と記されている。四月二十六日付けの「星島日報」の港聞(Local News)にも李兆基氏と道教協会会長、任法融氏の関係が説かれ、「(李兆基)盼老子是祖宗 称任道長『卜卦十有九中』」と記されている。李兆基氏は、唐の皇帝のように、老子が自分の祖先であってほしい、と述べ、老子が関尹に五千文を説いたという伝説のある樓觀台の修復に一千萬元(約一億五千万円)の援助をしている。また任法融氏は、李兆基氏の師傅であり、また友人であるという。興味ぶかいのは、李氏が任氏の家風水に関して相談し、十のうち九つあたると、絶大な信頼を寄せていると書かれていることである。李氏と任氏が握手している写真が載せられている。

さて今回のフォーラムのテーマは「和諧世界、以道相通」というものである。中国の古典である『老子道德經』の中の基本概念である「道」を利用して、世界の調和を目指そうというものである。シンボルマークの「道」のデザインは、王献之の草書の「道」をアレンジしたもので、「首」の第一画は香港を象徴するピンクの花があしらわ

れ、「しんによう」は、長城の形にデザインされている。香港の中国復帰十周年記念とも重ね合わされ、香港と中国を結びつける意味が含まれているようだ。たんに学術のみでなく、宗教、政治をも含む目的をもった会議であった。

その中のテーマに「現代管理」という一見、『老子道徳経』の内容にそぐわない部門があるのは、経済界の大物である李兆基氏が後援していることと無関係ではないだろう。発表者の滞在費（宿泊・食事）、西安から香港までの飛行機代（チャーター便二機）はすべて主催者側の負担であったが、李兆基氏の関連企業から援助をうけているのであろう。管理という項目は企業の経営管理にも役立つようにという意図があったと思われる。

発表者は学者や研究者ばかりではなく、むしろ道士が多かった。当初、『道徳経』に関しては、馬王堆や郭店楚簡の問題を扱った論文が多いと予想していたのだが、それはみごとに外れて、意外にも、ほとんどなかった。研究発表というよりも、『老子道徳経』の中の言葉をもちいて、いかに世界をよくしていくかという話が多かった。それらの発表の中では、『道徳経』の作者は『史記』に記されている老子そのものであることは自明の事実というスタンスであった。

日本では、たとえば金谷治氏の簡単な解説（平凡社、中国の古典、老子）にもあるように、『道徳経』の作者と『史記』にみえる老子という人物は同じではない、という認識であるが、そのような観点は私が聴いた発表の中では一切なかった。もちろん太上老君を神として尊崇する宗教者と学者の観点が同じであるはずがないのだが…。

そのような背景を理解したとき、私の発表がいかに、その場の空気を読めないものであったかがわかるであろう。以下、小論の小見出しに番号をつけて示すと、(1) 《道徳経》裡的精和《列仙伝》裡的精 (2) 帶“成”字的人名—広成子・大成・容成公和老子 (3) 老聃之死 (4) 天地 (5) 是天地之精，還是天地之情？ (6) 陰陽 (7) 結論 となる。委細は省略するが、太上老君となる老子と房中術を結びつけたり、『莊子』にみえる老聃が死んだという話を紹介したり、従来、「天地の情」と解釈されている部分も房中術的観点からみれば、「天地之精」と解釈すべきではないかと述べたり、広成子・大成・容成公など、その名に「成」のつく人物は房中術と関連することが多いが、後世、『釋文』や成玄英の注などで、老子の別号とされているのは何故なのだろうと問いかけたり、『史記』の老子伝にみえる老子は、『道徳経』の内容とほとんどかわらず、むしろ、房中術と関連する広成子・大成・容成公などの方が、『道徳経』の思想を体現しているといった内容は、この大会の雰囲気にはなはだそぐわないものであった。発表時間の関係で、(3) (4) (5) (6) は省略したが、それでも前述のよ

うな厳しい批判を受けた。

同じく評議人である鄭志明氏からは、それほどでもなく、また二十六日に香港で行われた劉仲宇氏（上海華東師範大学）による総括では、「日本の学者（あえて名前を出さないよう配慮してくれていたようである）の述べた『老子道德経』の中の精と房中術の関係は一定の意義がある」と、ほんの少しだけ評価された。

翌日は楼観台の落成式をかねた記念祝典に出席、漢陽陵（景帝、および皇后の墓）をたずねた。香港での詳細は省略するが、以下、インターネット\*<sup>1</sup>に掲載されている日程を掲げておく

西安期間：（4月22日至24日）

- 1、開幕式
- 2、論壇発言
- 3、楼観老子説経台拡張落成大典暨祈祷世界和平法会
- 4、《太平頌》音楽歌舞晚会
- 5、道教文化展覽
- 6、参観兵馬俑、漢陽陵、八仙宮等活動

香港期間：（4月26日至27日）

- 1、論壇発言
- 2、中国道教協会会長任法融道長講道
- 3、由81位高道共同举行祈福儀式
- 4、《道德経》版本、訳本展
- 5、道教音楽会
- 6、閉幕式

また以下は、やはりインターネットに掲載されている主催者等の名称である\*<sup>2</sup>。

主辦单位：

中華宗教文化交流協會

由中国大陸、台湾、香港、澳門和海外華人華僑中有志于宗教文化交流事業的各界人士自願組成，在中国大陸注册，属于非營利性的社会組織，其宗旨是加強和促進祖国内陸與台湾、香港、澳門及海外華人華僑，以及與其他国家和地区宗教界的交往與交流，广交朋友、增進友誼、促進合作，共同發掘宗教文化中的積極有益的内容，弘揚中華優

秀伝統文化。名誉会長由全国人大副委員長傅鉄山、全国政協副主席帕巴拉・格列朗傑、丁光訓担任，首任会長由中国国家宗教事務局局長葉小文先生兼任。

#### 中国道教協會

由嶽崇岱、易心瑩、陳櫻寧等道教界知名人士發起成立于二十世紀五十年代，是中国大陸道教徒聯合的爱国宗教团体和教務組織。其宗旨是協助政府貫徹執行宗教信仰自由政策，維護道教界合法權益；興辦道教事業，弘揚道教教義，伝揚道教文化，増進社会道徳風尚；繼承発揚道教優良伝統，加強道教自身建設；団結全国道教徒，積極参加社会主義物質文明、政治文明和精神文明建設，為構建和諧社会、促進祖国統一、維護世界和平貢獻力量。現任会長是任法融道長。

#### 承辦單位：

国際道徳経論壇陝西組委會：由省政府副省長張偉、省政協副主席胡悦、省道教協會會長任法融担任組委會主任。組委會下設総協調組、開幕式活動組、学术交流組、樓觀台現場活動組、文芸晚会組、会務接待組、宣伝報道組等工作小組。

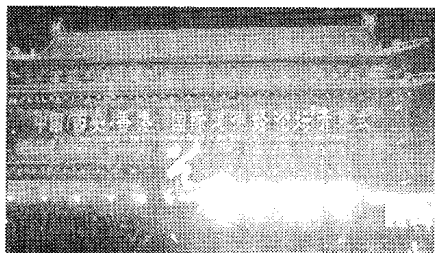
国際道徳経論壇香港組委會：由香港道教聯合会牽頭，主席湯偉奇道長担任主任委員，成員以香港道教聯合会第二十一屆理事会团体會員為主，大略分工為六箇專責小組：宣伝與公関，接待，論壇，音樂会，宴会，祈福謝恩法事與閉幕。

#### 協辦單位：

中国社会科学院世界宗教研究所  
陝西省社会科学院道学研究中心  
四川大学道教與宗教文化研究所  
厦門大学道学與伝統文化研究中心  
宗教文化出版社  
中国宗教雜誌社

このような大規模な学会が、はたして日本で可能かということを見ると、おそらく不可能であろう。経済界の大立て者が後援しているということ、また宗教関係の協会が深く関わっていることは、非常に興味ぶかいことである。

以下、私が撮った写真を何枚か掲載しておく。



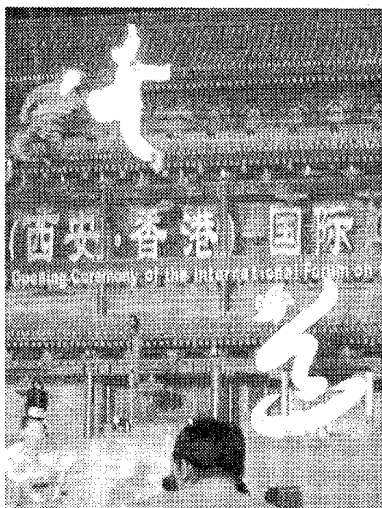
4月22日 開幕式 西安



4月27日 道教協会会長任法融氏 香港



4月26日 孫悟空役で有名な俳優 六小齡童氏の発表



同 ワイヤアクション



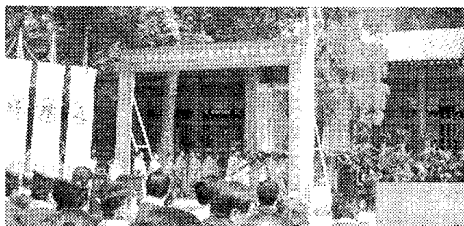
4月24日 西安外国語大4年生のボランティアの人たちと山田俊氏

4月27日 香港のボランティアの人たち

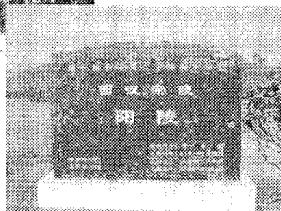


4月23日 大形発表

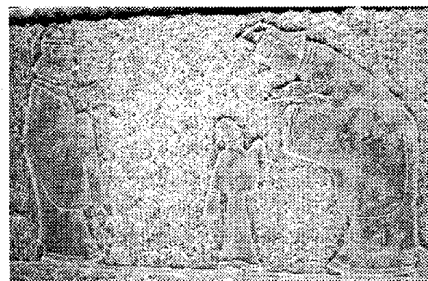
4月26日 大形とシンガポールの道士 李至旺氏(中)と山田俊氏(右)



4月24日 楼観台修復記念式典



4月25日 漢景帝陽陵見学



4月26日 孔子見老子画像石 山東省博物館のもの

註

\*1 <http://www.taoist.org.cn/daoism/gaikuang/richeng.html>

\*2 <http://www.taoist.org.cn/daoism/gaikuang/jigou.html>